

協働論Ⅱ

多様な協働体制づくり

日時：平成20年1月27日（日） 13:00～15:00

講師：小池 康弘（名古屋NGOセンター事務局長）

概況



■NGOとは

NGOとは非政府組織であり、国連憲章にも用いられている用語です。主な活動内容は人道支援（援助）、自立支援（人々の問題解決力を高める支援）、調査・研究・分析、政策提言です。財源は会費、市民や企業からの寄付金、事業収入のほか、民間の助成金、委託収入（行政からの事業委託）があります。

名古屋NGOセンターに加盟する東海地方のNGOは45団体です（08年1月現在）。アジアで活動する団体が多いですが、防災・環境問題・在日外国人支援などの国内問題に取り組むNGOもあります。また、中小の団体が多いことはこの地方の特徴です（年間予算が2000万円以内の団体が90%以上。おおむね1000万円以上の規模の団体ならば有給の常勤スタッフ1名を雇うことができますが、現状では多くのNGOはボランティア・スタッフによって支えられています。

■NGOの活動例

例として、先生も所属している「ニカラグアの会」について説明がありました。ニカラグアの会は、1985年に医療品を送る会として設立されたNGOです。現地のNGO（カウンターパート）に協力する形で、小学校や夜間成人女性学校の支援など貧困層の支援を行っています。

先生は、行政・NGO・大学の教員（これが本職）という3つの立場を経験されてきましたが、この3つのレベルで活動してきた経験から、感じたことを幾つか話されまし

た。その中で、日本が行っている「顔の見える援助」に対する疑問、「寄付金は小額、モノなら不用品を寄付する」という日本の寄付文化の欠如が特に印象的でした。

■ワークショップ

後半はワークショップとして、簡単なゲームを行いました。

一つ目は「無人島ゲーム」。このゲームでは、「これから無人島で生活することになったときに持っていくもの」を考えてもらいました。このゲームは、無人島を「極限の貧困状態」に置き換えて何が必要か考えてもらうというものでした。生徒からは、生命維持に必要なものだけでなく、精神安定に役立つものが挙げられました。

二つ目は、現実起きた事例を用いて、トラブルが起きたときに自分ならどうするかを考えてもらいました。これは、NGOが持つ課題に注目してもらうものでした。NGOの課題として、プロジェクトマネジメントや社会的説明責任、組織としての統治の重要性を説明して講義を終えました。